

経済マンスリー [原油]

～欧州債務問題に左右され、原油価格は値動きが大きい展開～

1. 価格動向

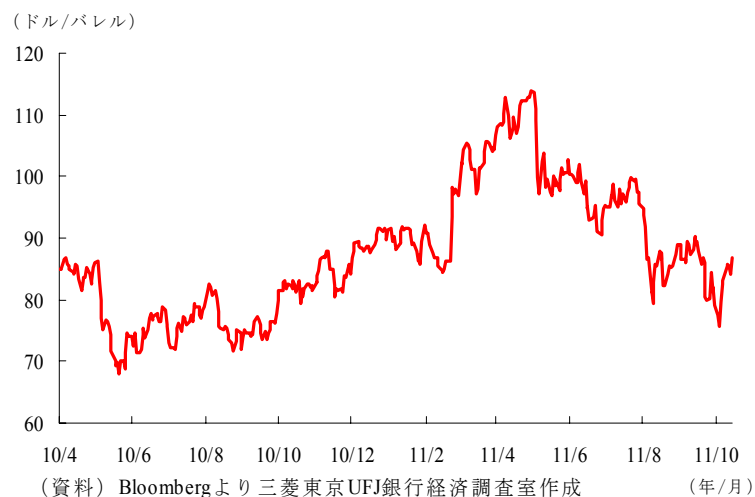
欧州債務問題への懸念や主要国の弱い経済指標を受けて、原油価格は 75 ドル台と昨年 9 月以来の安値に

原油価格（WTI 期近物）は、9 月上旬にはハリケーン襲来を受けて供給懸念が高まり 89.34 ドルに上昇したが、9 月中旬には欧州債務問題を背景に原油価格は下落、80 ドル台後半で推移した。

9 月 21 日に連邦公開市場委員会（FOMC）後の声明で米景気下振れリスクが示されたことを受けて、翌 22 日の原油価格は前日比約 6%安の 80.51 ドルへ急落した。27 日には欧州金融安定基金（EFSF）の規模拡大の報道を受け、原油価格は 84.45 ドルに急上昇したものの、30 日には同問題への懸念の再燃や、欧米と中国の経済指標が弱い内容だったことを受けて 79.20 ドルへ下落し、さらに 10 月 4 日には 75.67 ドルと昨年 9 月以来の安値となった。

しかしその後、米 9 月分雇用統計の改善や欧州主要国による債務・金融問題への取り組みが好感され、原油価格は 85 ドル近辺へ上昇している。

第 1 図：原油価格（WTI 期近物、終値）の推移



2. 供給動向

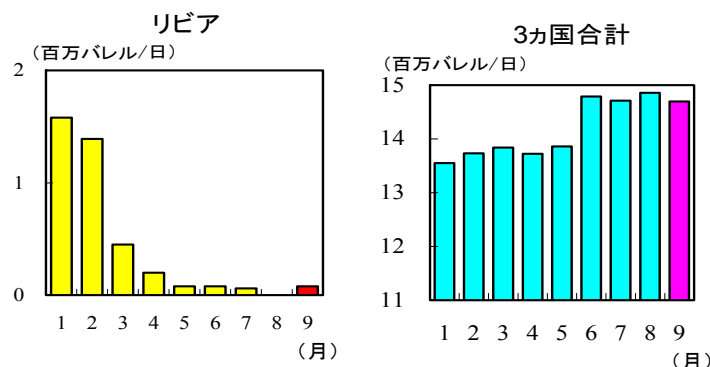
リビアの原油生産再開

本格回復に対する見方は様々

リビアの原油生産は、1月以前の平時には日量160万バレルだったが、内戦状態が続いたため大幅に減少し、8月時点でほぼゼロとなった。しかし、内戦状態の終結を受けて原油生産は再開されており、9月時点の産油量は同8万バレルとわずかに回復している。

今後の最大の注目点はリビアの原油生産回復ペースであるが、見方は大きく分かれている。国際エネルギー機関（IEA）は10月号月報において、今年末時点で日量60万バレルに回復するとの見通しを示し、前月時点の予想（同35～40万バレル）よりも回復ペースが早まるとみている。また、石油輸出国機構（OPEC）のバドリ事務局長は「1年以内には内戦前の水準を実現する」と発言するなど、比較的楽観的な見方を示している。しかしながら、関係者の中には、原油生産の本格回復には2～3年を要するとの見方も多い。

第2図：リビアと3カ国（サウジアラビア、UAE、クウェート）の原油生産



(資料) IEA, Oil Market Report より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

リビアの生産減少分をサウジアラビア等の増産が補ってきたが、9月は減産

リビアの生産減少を補うために、サウジアラビアやUAE、クウェートといったOPEC主要国が増産してきたが（第2図）、9月のサウジアラビアの生産量は、夏季需要期のピークを過ぎたことを主因に小幅減少した。これを受けて、OPECの生産余力（＝生産能力－生産実績）は日量414万バレルと前月から小幅に拡大している。

イランのOPEC理事は、リビアの原油生産再開に伴いサウジアラビア等は減産すべき、と主張しているのに対し、サウジアラビアの石油鉱物資源相は、世界の原油需要は減少しないと見込まれるためリビアの産油量が増加しても自国は減産しない、と発言している。

サウジアラビアやUAE、クウェートといった増産を続けてきた国は今後、リビアの生産回復ペースと世界の原油需要動向を見極めながら、生産調整の有無を迫られることとなろう。

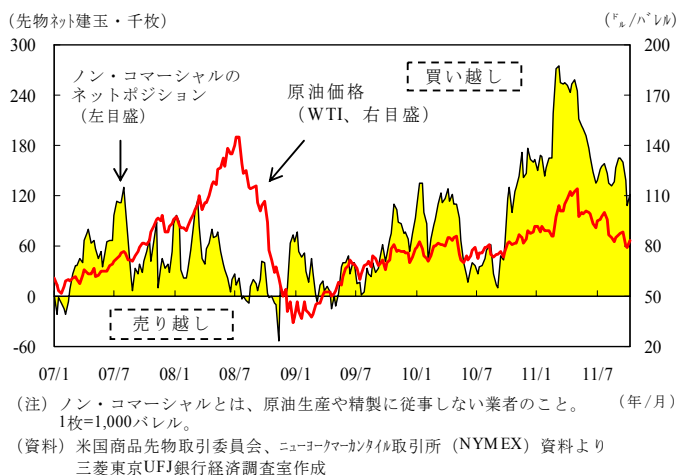
3. 原油市場をめぐる資金動向

投機筋の買い越し額は1年振りの低水準

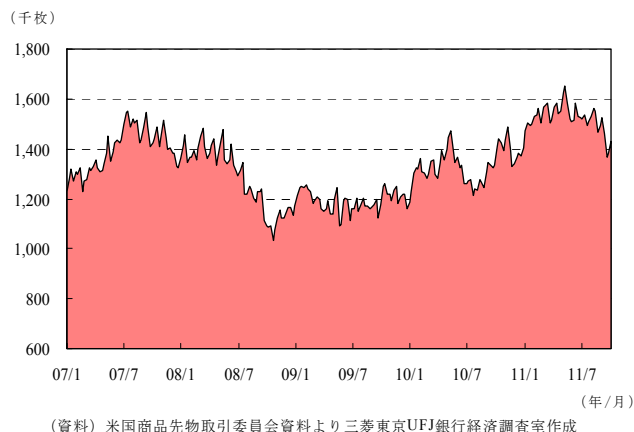
原油先物市場における投機筋の買い越し額は、ハリケーン襲来による供給懸念等を背景に9月に入り3週連続で増加した。しかし9月下旬以降は、欧州債務問題や米景気減速に対する懸念を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、買い越し額は3週連続で減少し、10月4日時点には1年振りの低水準を記録した。直近10月11日も小幅反発にとどまっている（第3図）。

また、原油市場への資金流入を示す総建玉（未決済残高）は過去最大規模から減少基調にある（第4図）。

第3図：原油先物市場の投機筋ネットポジション



第4図：原油先物市場の総建玉



4. 価格の見通し

原油価格は80ドル台前半の推移が見込まれる

リビアの内戦状態は終息したものの、原油生産の本格回復には時間を要するとみられ、原油価格を押し下げる効果は小さいと見込まれる。シリアやイエメンなどリビア以外の中東・北アフリカ諸国の情勢緊迫が続いていることから、供給懸念は払拭されておらず、当面は原油価格の下支え要因となろう。

他方、欧州債務問題の深刻化とそれに伴う金融システム不安や、米国景気減速懸念を背景に、投資家のリスク回避姿勢は続くとみられ、世界の原油需要が低迷するおそれも指摘されている。こうしたなか、原油価格は上値の重い展開が続き、80ドル台前半の推移が見込まれる。

照会先：経済調査室 篠原 令子（原油）reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページ<http://www.bk.mufg.jp>でもご覧いただけます。